

令和3年6月～7月まちづくり懇談会

別紙1

栗山赤十字病院の改築について

栗山町長 佐々木 学

病院整備方針策定項目及び町の方針

①診療科

町の方針

現在の診療科 1 2 科の現状維持

②病床数

町の方針

病床数は、100床程度（現状136床）

③概算事業費及び費用負担

町の方針

概算事業費は、45～50億円を想定

建設費用の一般財源分は、栗山赤十字病院が負担

④建設場所

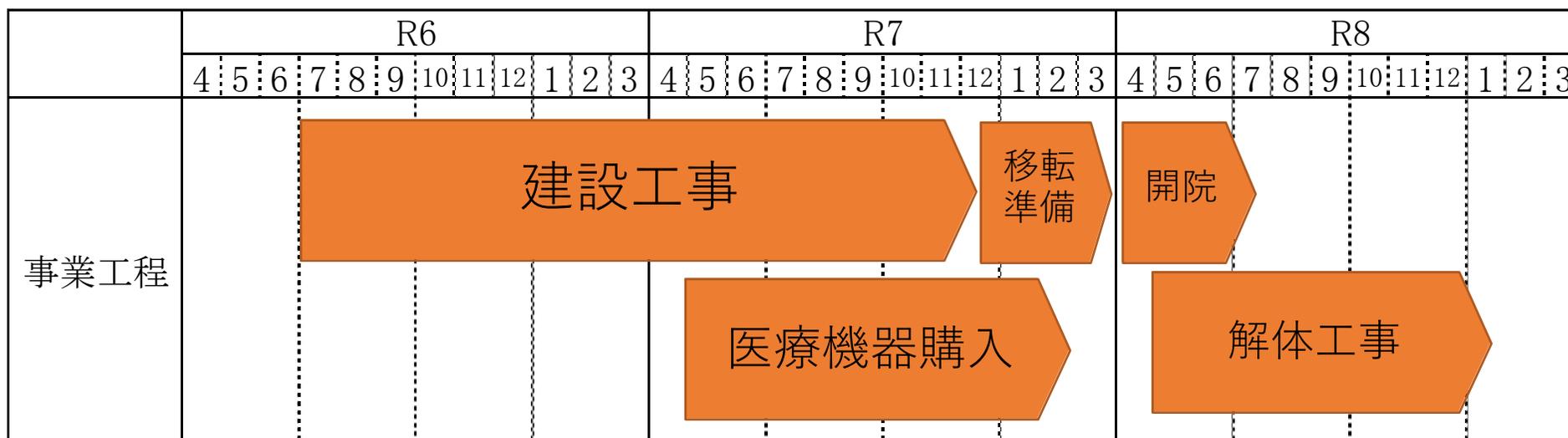
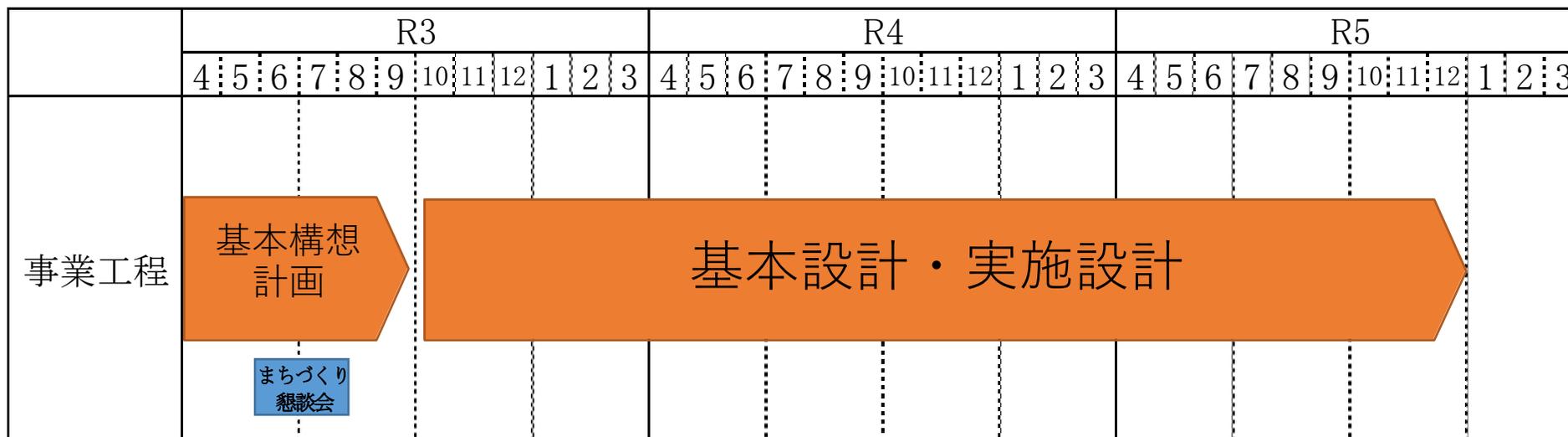
町の方針

現地建替

新病院建設イメージ図



病院改築に向けた想定スケジュール



<病院整備に係る主な意見①>

【診療科に関する主な意見】

口腔外科の新設	呼吸器内科の新設
産婦人科の新設	整形外科の午後診療の拡充
週1回の診療科の拡充	脳神経外科の新設
小児科の新設	皮膚科の診療日数・時間拡充
眼科の診療日の拡充	近隣市町の病院で対応できる診療科目は廃止しては

【意見に対する町の考え方】

新病院開院時においては、現在の診療科12科を維持することとし、診療科の新設や診療日・診療時間の拡充については、医師確保や採算性などを考慮し、診療科・診療日数の適正化を図ることとします。

<病院整備に係る主な意見②>

【病床数に関する主な意見】

療養病床の確保	慢性期病床の確保
感染者病床の確保	患者の集客も考えるべき

【意見に対する町の考え方】

病床数を現在の136床から100床程度に減少となるが、長期の入院が可能な療養病床など、将来の医療需要を勘案し、必要とされる病床数は確保するなど、病床数の適正化を図ることとします。

<病院整備に係る主な意見③>

【費用負担に関する主な意見】

町の補助金で経営している日赤病院が負担していけるのか

日赤病院に対する町の補助金が増えるのではないか

【意見に対する町の考え方】

費用負担については、国の財源を最大限有効活用したうえで、一般財源分を栗山赤十字病院に負担を求めるものです。

町から栗山赤十字病院への補助金は増額となりますが、病床数が減少することにより国からの交付金が増額されることから、町と栗山赤十字病院の負担は減少することとなります。

<病院整備に係る主な意見④>

【建設場所に関する主な意見】

旧栗山小学校のグラウンドへ	駅周辺へ
費用面を考えると現地建替で問題ない	現在の場所で問題がないのであれば現地建替が良い
移転建替となると土地購入費や造成費などの費用がかかる	駐車場は広く確保
現地立替の敷地はあるのか	病院診療を休まずに移行できるのか

【意見に対する町の考え方】

建設場所については、現地建替の場合には既存建物の解体費（約6億円）の財源確保が図られるほか、現在の人工透析病棟が活用でき、移転建替の場合は解体費のほか用地取得費や造成費が発生することから現地建替とします。

<病院整備に係る主な意見⑤>

【その他の意見】

MR I 機器は、是非、導入していただきたい	免振装置が必要ではないか
調剤薬局を、病院敷地内に設置してほしい	院内薬局があれば良い
受付から診察室まで遠い	送迎サービスの検討や町営バスなど交通の利便性に配慮
人間ドックの充実など収入を増やす仕組みを作っていくべき	長い診察待ち時間の解消
救急外来体制の維持継続	医師や看護師の確保対策

【意見に対する町の考え方】

構造上の問題については、新病院の建設に当たり解消されるよう設計を行います。

<病院整備の基本的な方針①> 診療科

【方針】 診療科は、現状の全12科を維持

栗山赤十字病院の診療体制

診療科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
内科	○	○	○	○	○	
外科		○	○	○		
整形外科	午前のみ	午前のみ	午前のみ		午前のみ	
精神科		○		○		
透析科	○	午前のみ	○	午前のみ	○	午前のみ
眼科					午前のみ	
耳鼻咽喉科 R2年4月から1日増		午後のみ		○	午前のみ	
皮膚科		○				
泌尿器科			○			
循環器科	午前のみ					
リハビリ科	○	○	○	○	○	
リウマチ科 R2年7月新設		午後のみ			午前のみ	

※○は午前・午後の1日診療

<病院整備の基本的な方針②> 病床数

【方針】 病床数は、100床程度（現状136床）

- ・現在の病床稼働率（80%）や将来の医療需要推計による（91%）

近隣市町の病床数

栗山赤十字病院	町立長沼病院	町立南幌病院	由仁町立診療所	夕張市立診療所	岩見沢市立総合病院
136床 (一般96床 療養40床)	60床 (一般60床)	60床 (一般60床)	19床 (一般19床)	19床 (一般19床)	484床 (一般365床 精神115床 感染4床)

医療需要予測指数

※2015年を100として、将来の医療需要の割合を示したもの

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
全道平均	100%	104%	106%	105%	103%	100%	96%
岩見沢市	100%	99%	98%	94%	88%	82%	75%
夕張市	100%	85%	71%	58%	46%	37%	30%
栗山町 (医療需要推計による推計病床数)	100% (136床)	99% (135床)	96% (130床)	91% (124床)	84% (114床)	77% (105床)	70% (95床)
病床稼働率を考慮した病床数	109床	108床	104床	99床	91床	84床	76床
長沼町	100%	100%	100%	98%	93%	89%	81%
南幌町	100%	100%	101%	102%	99%	94%	84%
由仁町	100%	95%	89%	83%	74%	66%	59%

<病院整備の基本的な方針③>

概算事業費及び費用負担

【方針】 概算事業費は、45～50億円
建設費用は、栗山赤十字病院が負担

【概算事業費内訳】

建設費	37億円	延べ面積7,200㎡ 建設単価469千円/㎡
医療機器	3億3千万円	CT、X線は更新し、MRIを新たに整備
解体費 外構工事等	7億7千万円	解体費6億円、外構工事等1億7千万円
合計	48億円	
財源内訳	1億円	北海道の地域医療介護総合確保基金（日赤へ交付）
	47億円	町からの補助金

【費用負担の考え方】 町からの補助金47億円（過疎対策事業債借入による）

過疎対策事業債借入による交付税措置（7割分）	一般財源（3割分）
32億9千万円	14億1千万円

※一般財源の14億1千万円は、建設後30年間にわたり栗山赤十字病院が負担

<病院整備方針策定項目④> 建設場所

【方針】 建設場所は、現地建替

- ・ 交通の利便性、町づくりの観点、費用面を考慮して決定

(現地建替の場合)

既存建物の解体費（約6億円）の財源確保が図られるほか、現在の人工透析病棟が活用できる。

(移転建替の場合)

解体費のほか用地取得費や造成費が新たに発生する。